

まちづくり交付金 事後評価シート
中央第二谷中地区

平成24年12月

埼玉県和光市

※記入にあたっての留意事項(このページは、提出の際には添付する必要はありません。)

本様式の記入にあたって、下記の点に留意してください。

1. モニタリング(一部の結果)・事後評価・フォローアップの3段階について、記入欄を色分けで区分しています。それぞれの結果を該当欄に記入してください。

段 階	内 容	時 期	記入欄の 色分け
《第一段階》モニタリング	事業期間中に、実施状況、数値目標の達成状況、効果発現の状況を確認する	交付期間中の 任意の時期	緑点線
《第二段階》事後評価	評価項目の計測（見込みの値でも可）、効果発現に関わる要因、今後のまちづくり方策等を整理する	最終年度	水色
《第三段階》フォローアップ	事後評価時に「見込みの値」としたものに対して、事業終了後に、確定した数値で再度整理する	原則、交付終了の翌年度	ピンク

2. 記入項目の詳細や記入例については「事後評価シート作成の手引き」を参照してください。
3. 記入欄が不足する場合には、適宜、欄(枠)を拡張するなどして記入して下さい。
4. 国への提出後、必要に応じて再提出等のために修正を行う場合は、従前の記載内容は削除せず、消し線を用いて下さい

例1) 数値等の軽微な修正

【修正前】 ○○整備事業 面積 2,300㎡

【修正後】 2,800㎡

例2) 文章の修正

【修正前】 ……するものとし、特に、●●館のイベント等に関する情報を発信していくものとする。

【修正後】 特に、●●館のイベント等に関する最新情報をリアルタイムでHP上から提供していくものとする。

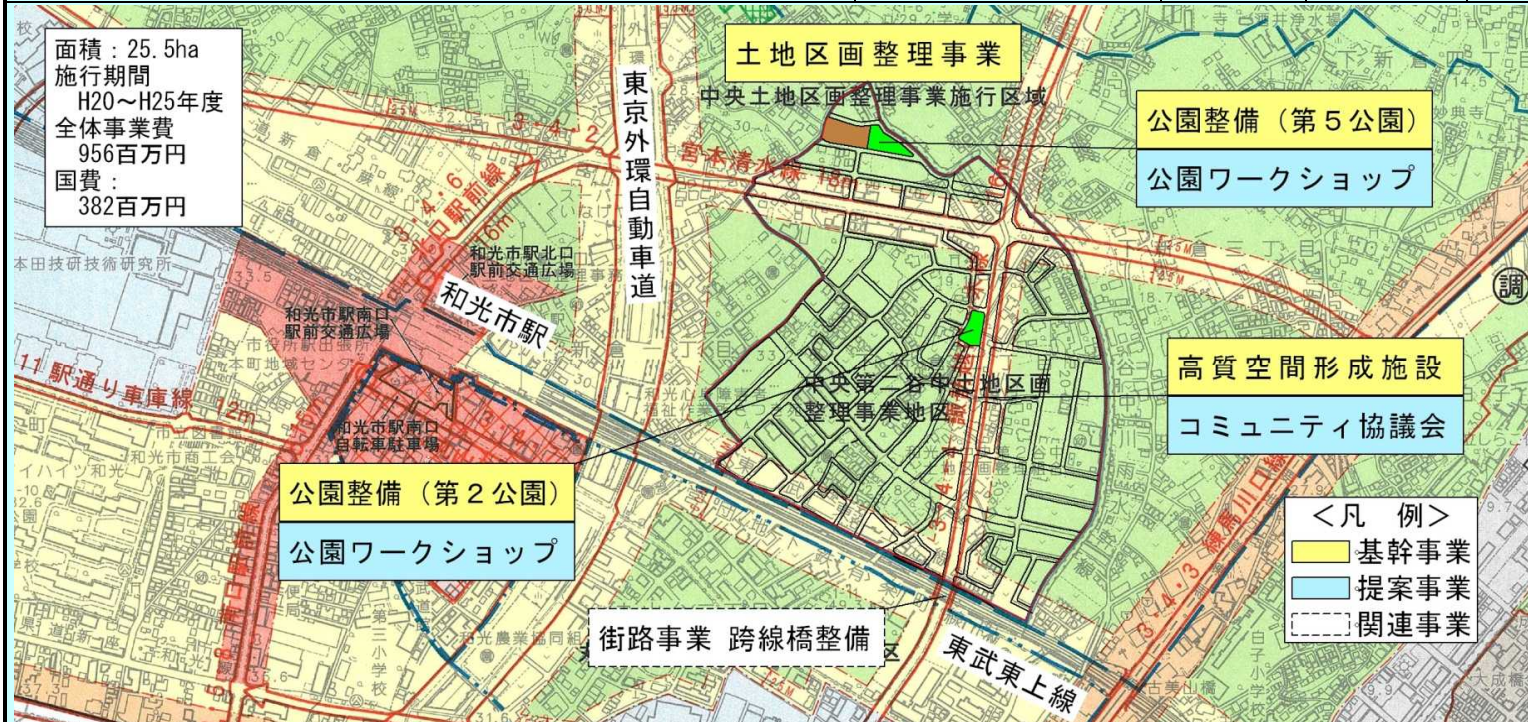
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	和光市		地区名	中央第二谷中			面積	25.5		
交付期間	平成20年～平成24年		事後評価実施時期	H24年		交付対象事業費	956	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	公園(2号公園・5号公園)、高質空間形成施設、中央第二谷中土地区画整理事業									
			提案事業	事業活用調査(まちづくり満足度調査・公園ワークショップ)、まちづくり活動推進事業(まちづくり協議会・地域ふれあい活動)									
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			基幹事業										
	新たに追加した事業		基幹事業										
			提案事業										
交付期間の変更		当初				交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	面整備による人口定着	人	2,248	19	2,600	24	-	2,843	○	ありなし	土地区画整理事業による公共施設の整備改善によって、快適な住環境が形成されたため。	平成25年6月頃
	指標2	憩いの場および避難地の確保	m	3,736	19	6,169	24		6,169	○	ありなし	土地区画整理事業の推進や公園ワークショップによって公園が確保される事になるが、公園整備工事の竣工がH24年度末となるため評価値については推定値である。	平成25年6月頃
	指標3	イベントへの参加者数	人	0	19	200	24	300 (H23年度時点)	530	○	ありなし	提案事業であるまちづくり協議会や公園ワークショップ、満足度調査により住民の意識が高まったため。	
	指標4	まちづくり満足度調査	%	50	19	70	24		72	○	ありなし	基幹事業によって公共施設が整備されたこと及び、ワークショップやイベントの開催により、まちづくりへの関心が高まったため。	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等						
	モニタリング	指標1及び指標3については、交付最終年度を目前に調査を行い数値目標を達成済みか、または達成可能かの判断を行った。		都市再生整備計画に記載し、実施できた			モニタリングを行った指標1及び指標3については達成見込みが確認できているが、その他の指標についてはH24年度末にモニタリングする必要がある。						
	住民参加プロセス	2号・5号公園ワークショップ、まちづくり協議会		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			●						
	持続的なまちづくり体制の構築	まちづくり協議会		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			●						

様式2-2 地区の概要

中央第二谷中地区(埼玉県和光市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
安全で快適な住環境を形成するとともに、地域住民のコミュニティ形成やまちづくりへの参画をはかり、住民による継続的なまちづくりを進める。	面整備による人口定着	単位：人	2,248	H19	2,600	H24	2,800	H25
	憩いの場と避難地の確保	単位：㎡	3,736	H19	6,169	H24		H25
	イベントの参加者数	単位：人	0	H19	200	H24	530	H24
	まちづくり満足度調査	単位：%	50	H19	70	H24	72	H24



公園ワークショップ



地域ふれあい活動

まちの課題の変化	まちづくり協議会や公園ワークショップに参加する住民は同じような顔ぶれである一方、アンケート調査等を行うとこれらに参加していない住民から様々な意見が寄せられている。今後は、意見を持っている住民に協議会やイベントに積極的に参加してもらえるような呼びかけや企画を図る必要がある。また、急激な人口増加による保育・教育施設の拡充や、道路整備に伴う新たな交通安全対策についても検討が必要である。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	終盤を迎えた土地区画整理事業を更に進め事業を早期に完了させることにより、道路交通や災害に対する安全性が高まり、より安全で快適なまちを持続することが出来る。整備された公園や憩いの場を歩行者動線や活動目的に合わせて有機的に連携し、案内板やパンフレット等によるPRを行う。自治会やNPO法人の協力により、まちづくりや交流イベントを定期的に関催し、新旧住民や世代間の交流をより深めていく必要がある。道路付帯地や公共空地の活用を、近隣住民の管理運営にゆだねることで行政とのパートナーシップを確立すると同時に、憩いの場の確保を図る。自治会やNPO法人の協力を得て、多くの住民が参加し交流できるイベントを定期的に企画しコミュニティを図ると共に、まちづくりの課題を検討・協議する継続的なまちづくり体制の構築を進める必要がある。

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()					

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし	
指標1	面整備による人口定着	人	平成25年4月1日時点の地区内人口を戸籍住民課が住民基本台帳調査によって整理する	1,277	H12	2,248	H19	2,600	H24	モニタリング	●		モニタリング	○	●
										事後評価	確定見込み	●	2,843	事後評価	
指標2	憩いの場及び避難地の確保	㎡	平成25年6月に予定される土地区画整理組合の決算総会における事業報告を元に都市整備課が整理する	0	H10	3,736	H19	6,169	H24	モニタリング	●		モニタリング	○	●
										事後評価	確定見込み	●	6,169	事後評価	
指標3	イベントの参加者数	人	平成22年～24年に開催されたまちづくりイベントへの参加者数をまちづくり協議会において都市整備課が整理する	0	H10	0	H19	200	H24	モニタリング	●	300	モニタリング	○	
										事後評価	確定見込み	●	530	事後評価	
指標4	まちづくり満足度調査	%	平成24年11月に区画整理組合がアンケート調査を行いその内容を整理する。	-		50	H19	70	H24	モニタリング	●		モニタリング	○	
										事後評価	確定見込み	●	72	事後評価	
指標5										モニタリング			モニタリング		
										事後評価	確定見込み			事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	都市計画道路の整備が進んだことによって、沿道の比較的中規模の開発が進み、その多くが集合住宅系であったことから、一気に人口が増加したため。	土地区画整理事業による整備が終盤になったことで緩やかな人口増加を想定していたが、急激な人口増加となった。
指標2	事業活用調査である公園ワークショップによって、各公園が地域の特色を生かした個性的なものとなり、周辺住民の理解と協力が得られたこと及び、まちづくり交付金による安定的な資金確保が可能であったため。	
指標3	イベントの開催にあたっては、まちづくり協議会を中心として地元自治会やNPO法人の協力を得られたことにより、PRや準備がスムーズに行えたため回を重ねるごとに参加者が増えていった。	過去にまちづくりイベント等を開催した事が無かったため、目標値の設定が困難であったが、結果的に設定した目標値は低すぎたといえる。
指標4	都市計画道路や公園整備によって利便性が向上するとともに、まちづくり協議会によるイベントの開催に伴ってまちに対する意識とコミュニティが生まれ、快適な居住空間ができつつあること。	アンケート対象者が、区画整理の権利者に限られており、賃貸住宅等の居住者の意見が反映されていないこと。
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・第一期都市再生整備計画から継続してまちづくり事業を進めてきたことでまちづくりへの関心が高まり、住民と行政のパートナーシップが一層強まり公園や街路樹の設置については住民からの積極的なアイデア等が提起されるようになった。
 ・公園ワークショップ、まちづくり協議会、地域ふれあい活動によって新旧住民の交流が進むと共に、住民、NPO法人、自治会との連携が生まれた事によって異なる世代間の交流も図られることになった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
面整備による人口定着	予定どおり実施した	● 実施1回 平成24年3月1日付住民基本台帳を基に戸籍住民課で人口を調査し、地区内人口2,843人であったためすでに目標値を達成していることを確認する。	平成25年4月1日現在の住民基本台帳における地区内人口をもって、最終的な数値として整理する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
イベントの参加者数	予定どおり実施した	● 実施2回 平成22年度 まちづくり協議会報告におけるイベント参加者数130人及び平成23年度同会のイベント参加人数250人の合計380人で目標値をすでに達成していることを確認する。	持続的なまちづくり体制の構築や、地域住民のコミュニケーションを図るため、自治会やNPO法人の協力によるイベントの開催を今後も検討していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
2号・5号公園ワークショップ	予定どおり実施した	● 2号公園…平成22年度4回、公園の基本構想をまとめ公園整備事業に反映する。 5号公園…平成21年度4回、公園の基本構想をまとめ公園整備事業に反映する。	公園整備工事完成後に完成した旨の報告を行う。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
まちづくり協議会	予定どおり実施した	● 平成22年度から平成24年度にかけて18回(予定)開催し、まち並み点検やイベントの開催、高質空間形成施設の検討などを行いそれぞれ反映した。	引き続きまちづくりイベントの開催やまちづくり検討会の立ち上げに向けた活動を促す。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
まちづくり協議会	予定どおり実施した	● まちづくり協議会を母体に持続的なまちづくり体制の構築を進めてきたが、まだ組織化にまでは至っていない。		引き続き、まちづくりイベントの開催等を行うことによって組織構築を目指すと共に、自治会連合会や防災訓練のイベントを母体とした組織作りも併せて検討する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 構築に至らなかった)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(社会資本整備総合交付金事後評価検討チーム)	・都市整備課 課長、主幹 ・道路安全課 課長 ・下水道課 課長 ・公園緑地担当 統括主査	・第1回 平成24年 9月26日 ・第2回 平成24年10月24日	都市整備課 区画整理担当

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標4			
指標名		面整備による人口定着		憩いの場及び避難地の確保		イベントの参加者数		まちづくり満足度調査			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	公園(2号・5号公園整備事業)	○	土地整理事業による道路整備、特に都市計画道路の整備によって集合住宅の建設、公園の整備に伴って安全・安心のまちづくりが進み、良好な住環境が整いつつあることが人口の増加につながった。	◎	土地区画整理事業に伴う2カ所の公園整備が平成25年度3月末に完成すること及び、同事業による道路整備が進められたことによって、避難地と避難経路の確保が図られると共に、公園ワークショップによる公園の整備計画が住民参加により行われた。	○	まちづくり協議会による企画運営や、公園ワークショップ及びまちづくり満足度調査等の提案事業により住民参加の意識が高まり、公園予定地で開催されたイベントに多くの住民が参加した。	◎	基幹事業の整備に伴う公共施設の整備改善により、安全で快適な居住空間が形成されると共に、提案事業による各種イベントやワークショップへの参加によってまちづくりへの関心が高まった事によって満足度が向上した。		
	高質空間形成施設	—		—		—		—			
	土地区画整理事業(中央第二谷中土地区画整理事業)	◎		◎		○					
提案事業	まちづくり満足度調査	—		—		—		○		◎	◎
	公園ワークショップ(2号・5号公園)	—		◎		◎		◎		◎	
	まちづくり協議会	—		○		○		◎		◎	
	地域ふれあい活動	—		○		○		◎		◎	
関連事業	街路事業(和光都市計画事業3.4.4諏訪越四ツ木線 跨線橋整備事業)	○		—		—		—		○	○

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	既に事業の計画人口である2600人を大きく超えていることから、増加した人口に見合うまちづくり計画の更新を行う。	整備された公園と既にある避難地との連携を図ると共に、公共空間に休息スペースや樹木を植える等の憩いの空間を確保していく。	異なる居住年数や世代間のコミュニケーションが図られたことから、自治会やNPO法人を主体としたイベント等を開催していく。	アンケートの際に記載されている各種意見等を参考にまちづくりを進めていく。
-------	---	---	---	--------------------------------------

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○			指標○			指標○			指標○		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(社会資本整備総合交付金事後評価検討チーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市整備課 課長、主幹 ・道路安全課 課長 ・下水道課 課長 ・公園緑地担当 統括主査 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成24年 9月26日 ・第2回 平成24年10月24日 	都市整備課 区画整理担当

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
急激な人口増加に対応した安全で快適な住宅地の整備	地区内の基幹道路である都市計画道路の整備が進むと共に区画道路についても整備され、交通の安全性が高まった。 また、公園が整備されたことにより災害時の避難場所が確保されている。	都市計画道路における地区外との連絡部分が未整備のため、通過交通の動線を確保するため早期の着工が望まれる。	まちづくり協議会や公園ワークショップに参加する住民は同じような顔ぶれである一方、アンケート調査等を行うとこれらに参加していない住民から様々な意見が寄せられている。 今後は、意見を持っている住民に協議会やイベントに積極的に参加してもらえるような呼びかけや企画を図る必要がある。 また、急激な人口増加による保育・教育施設の拡充や、道路整備に伴う新たな交通安全対策についても検討が必要である。
不足している憩いの場と緑の創出や避難地の確保	公園の植樹や街路樹を植えることによって緑を創出すると共に、公園整備による憩いの場と災害時の避難地を確保することが出来た。	道路付帯地や公共空地における未利用地へ憩いの場や緑地空間を設置する等の整備が望まれる。	
起伏の激しい地区のための雨水対策施設整備	雨水排水路の整備と共に調整池を設け、集中豪雨の際の氾濫防止対策が進められた。	集中豪雨の際に造成工事が完了していない箇所から泥水が流出していることがあるため、流出防止対策が必要である。	
新旧住民の交流を図るための施設や空間の不足	地域ふれあい活動として交流イベントを2号公園にて開催し、新旧住民や異なる世代間の交流を行った。	イベントには子育て世代の参加が多く、高齢者の参加が比較的少なかったため、各世代の参加者がバランス良く参加できるイベントの開催が望まれる。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	土地区画整理事業の更なる推進	終盤を迎えた土地区画整理事業を更に進め事業を早期に完了させることにより、道路交通や災害に対する安全性が高まり、より安全で快適なまちを持続することが出来る。	・土地区画整理事業の推進。 ・公園予定地の早期整備。
	公園や憩いの場のネットワークづくり	整備された公園や憩いの場を歩行者動線や活動目的に合わせて有機的に連携し、案内板やパンフレット等によるPRを行う。	・公園予定地の早期整備。 ・公園の案内板や避難誘導案内の設置。
	多くの世代が参加できるイベント等の開催	自治会やNPO法人の協力により、まちづくりや交流イベントを定期的に行い、新旧住民や世代間の交流をより深めていく必要がある。	・自治会やNPO法人の協力によるイベントの開催。

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	地区内道路及び造成工事並びに地区外連絡道路の早期完成	土地区画整理事業を早期に完了させることにより、地区内道路の整備や造成工事が完了させると同時に、地区外連絡道路を道路整備事業や他の土地区画整理事業を進めることで改善させる。	・中央第二谷中地区及び和光市駅北口地区における土地区画整理事業の推進。
	住民協力による憩いの場や植樹帯の設置及び管理	道路付帯地や公共空地の活用を、近隣住民の管理運営にゆだねることで行政とのパートナーシップを確立すると同時に、憩いの場の確保を図る。	・公園予定地の早期整備。 ・民間団体への街路樹や道路付帯地の管理委託。(季節の花植え等)
	更なる交流イベントの企画・運営	まちづくり協議会を母体とする、まちづくり組織を立ち上げ、協議会で取り上げられなかった地域の課題や今後のまちづくりについて協議や検討を重ねていく。	・自治会やNPO法人の協力によるイベントの開催を通じてまちづくりへの意識を高め、継続的なまちづくり体制の構築を図る。

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

本計画におけるまちづくり協議会は、第一期土地再生整備計画の事後評価を受けて、土地区画整理事業によって生まれた新たな課題に対応し、検討・協議を進める事を目的としていたが、参加者が少ない事や協議会において課題に対する意見等がほとんど出ないことから、主にイベントの開催計画と景観の向上を中心とした検討を行ってきたため、当初の目的を達成したとは言いがたい。
そこで、今後はまちづくり協議会を母体とし、自治会やNPOと協力しながらイベント等の開催等を行い、地域の交流を通じてまちづくりに関する関心を高めながら組織作りを進め、継続的なまちづくり体制の構築を目指す必要がある。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	面整備による人口定着	人	2,248	H19	2,600	H24	確定 見込み ●	2,800	△	あり ● なし	→	平成25年6月	住民基本台帳による地区内人口の抽出	
指標2	憩いの場及び避難地の確保	m ²	3,736	H19	6,169	H24	確定 見込み ●		△	あり ● なし	→	平成25年6月	区画整理組合の決算総会における事業進捗報告	
指標3	イベントへの参加者数	人	0	H19	200	H24	確定 ● 見込み	530	○	あり なし	→			
指標4	まちづくり満足度調査	%	50	H19	70	H24	確定 ● 見込み	72	○	あり なし	→			
指標5				H		H	確定 見込み			あり なし	→			
その他の数値指標1				H			確定 見込み				→			
その他の数値指標2				H			確定 見込み				→			
その他の数値指標3				H			確定 見込み				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	過去の人口推移やワークショップ開催の経過を踏まえ、効果的かつ実現可能な数値目標を設定すると共に、まちづくり協議会を中心として住民へのPRを継続的に行ったこと。	住民に分かり易いものや、参加意識が生まれるような数値目標を設定し、効果を住民同士で実感できる指標を設定することが望ましい。
	うまくいかなかった点	まちづくり満足度調査においては、満足度という漠然とした数値についての指標であったため、事前の予測が出来にくく数値目標としては設定が難しかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	ハード的な数値目標とソフト的な数値目標をバランス良く設定したことで、相互の目標に対する連携が取りやすく、まちづくり協議会を中心としたPR活動を積極的に行うことが出来た。	各数値目標が地区の課題や指標相互の関連を生じ、交付期間の当初から効果が実感出来る数値目標を選択すべきである。
	うまくいかなかった点	ハードの整備が交付年度の後半に集中したことで、公園の整備等がアンケート調査における安全性・快適性の向上に寄与できない部分があった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	公園ワークショップや高質空間形成施設の検討をまちづくり協議会と連携して行ったことで、まちづくりに関心のある住民が自治会やNPO法人との協力関係を築くことが出来た。	地区内住民だけの参加ではなく、既存組織の協力を得てより広域な参加者を獲得し、行政を含めた相互協力体制の構築を進めるべきである。
	うまくいかなかった点	まちづくり協議会への参加者が少ないことがあり、継続的に多くの参加者でにぎわう環境作りに苦慮した。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	当該地区は第二期ということもあり、事前に課題点の整理が出来ていたことから、課題の解消に向けた取り組みを交付期間全体を通じて行うことが出来たこと。	交付最終年度以前に数値目標が確定するような指標設定をいくつか行い、評価時点で成果を明らかにすることが望ましい。
	うまくいかなかった点	評価作業が長期間にわたることから各時点報告の作業が繁雑で、その都度根拠設定を行わなければならないためスケジュール管理が難しかった。	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

<p>・今後の社会資本整備総合交付金の活用予定 現時点ではなし。</p> <p>・今後、事後評価を予定する地区 本市においては、平成27年度に白子三丁目中央地区、北インター地区の2地区において事後評価を実施予定。当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。</p>

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに評価結果を公表する	平成24年11月12日～25日 (2週間)	平成24年11月12日～25日 (2週間)	担当課への FAX、電子メール	都市整備課 区画整理担当
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	インターネット及び都市整備課窓口にて閲覧できる旨の告知	平成24年11月12日～25日 (2週間)	平成24年11月12日～25日 (2週間)		

住民の意見	特になし				
-------	------	--	--	--	--

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	・尾崎 晴男(東洋大学 総合情報学部教授)	平成24年11月28日	都市整備課	都市再生整備計画事業 評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	・吉田 武司(和光市議会議員) ・湯浅 康之(和光市越後山土地区画整理組合事務局長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・「指標3イベントの参加人数」における目標値200人の設定が、区内人口に対して少なかったという意見があった。 ・「指標4まちづくり満足度調査」におけるアンケート対象者を、区画整理組合の権利者を対象とするのではなく、区内居住者全員に行うべきであったとする意見があった。
	実施過程の評価	・適正に実施されたことが確認された。
	効果発現要因の整理	・適正に実施されたことが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・適正に実施されたことが確認された。
	その他	・当初、まちづくり協議会の開催目的は、当地区におけるまちづくりの課題に対して取り組んでいくことであったが、参加者が少なく地区全体の課題よりもイベントの開催や景観の改善などが中心となってしまい、地区の課題を解決するには至らなかった点が問題であるとの意見があった。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・参加人数の少なさや参加者の関心事がイベントの開催や景観の向上に偏ったことから、当初考えていたまちづくり協議会の目的であったまちづくりの課題に対する検討・協議が進まず、当地区の課題に対応できなかった。そこで、まちづくり協議会を母体とし、自治会やNPO法人と協力しながら今後のまちづくりを考える組織作りを進め、継続的なまちづくり体制を構築していく必要があるとの意見があった。
	フォローアップ	・フォローアップは適切であると認められた。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・上記まちづくり協議会に関する記述を加えることを除いては、妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--